

(第三種郵便物認可)

イベント

【成田】◆成田ゆめ牧場「てるてる坊主の物」 7月6日まで。主を入場窓口に持参すると、遊戯利用券1回プレゼント。また同牧場では通年で「雨の日傘を水確率と同じ%分」を実施。「来場当日水確率と同じ%分」の場料金から割引サービス。ホームページより申請書をダウンロードし、事項を記入の上、入口にて提示。同牧場 76(96)1009

◆県民の日・印旛行事「いんばふれスタ2014」 15日18時、成田空港第2ターミナル前中央広場。杉港開催で、印旛地区のご当地グルメの試食販売やキャラクターのステージパフォーマンスも。荒天時中止。関係者事務局・県印旛振興事務所 ☎043(4)11

【銚子】◆犬吠

真紅の外観と果肉が中まで赤いのが特徴の新品種のイチゴ「真紅の美鈴」を大網白里市大網の育種家、成川昇さん(72)が開発した。季節の風物詩として観光イチゴ狩りが人気を集めるなど本県はイチゴ栽培が盛んで、成川さんは手塩にかけた真紅の美鈴の普及を期待している。

大網白里の成川さん開発

元県農林総合研究センター育種研究所長の成川さんは退職後もイチゴの育種に取り組み、現在は市内に設けた施設で研究を続けている。

真紅の美鈴は、成川さんが県職員時代に開発した「ふさの香」と「麗紅」の交配、選抜により誕生した新品種。濃い赤色の外観に加えて果肉が中まで赤いのが特徴。また、味や日持ちも良いという。専門機関で調べたところ赤色の色素成分「アントシアニン」の含有量(100g当たり)は、ふさの香の約1.75倍、

新品種「真紅の美鈴」

「いちごおめ」の約3倍だった。また、この2品種に比べて甘みも強く感じる数値が出ている。

外観について成川さんは、市場関係者の反応が気になっていたが、知人農家の直売所で試食した来店客の反応が良かったことで自信を深めた。交配に着手してから8年後の2011年10月、成川さんは国に真紅の美鈴の品種登録を出願、12年には出願公表された。また、今年4月、思いを込めた名前の商標登録も出願、それぞれの関係省庁からの吉報を待っている。

成川さんは「産地として栽培を確立し、市場で取り扱ってもらえるように育てていきたい」と意欲を見せている。現在は県内農家8軒が栽培している。

県によると、県内で栽培されている品種はとちおとめが6割強を占める。その他は、紅ほっぺ、女峰、章姫など。産出額(12年)は約71億円で全国9位。

果肉の中まで赤～いいイチゴ



イチゴ育種家の成川さんが開発した新品種「真紅の美鈴」=大網白里市

成田の穴沢さんが優勝

印旛郡市の小中学生代表が集めた歯の健康審査会 = 成田市土屋の成田国際文化会館



香

Mini News